

奈良県内65店舗における グルカゴン点鼻粉末使用状況の 調査と課題について

谷奥 寛⁽¹⁾、西垣 賢⁽²⁾

(1)サン薬局天理東店、(2)サン薬局天理東2号店

背景

2020年度調剤報酬改定により、調剤後薬剤管理指導加算が新設され、調剤後にも低血糖症状の確認を含めた薬剤師による薬学管理が求められている。

当薬局では、テレフォンフォローアップ(以下TF)による重症低血糖予防を目的とした取り組みを2020年4月より開始しているが、フォロー中に低血糖症状を発現する例に遭遇することは多いと感じている。

TF時使用したフォーマット①

TF時使用したフォーマット②

トレーニングレポートで
使用したフォーマット

目的

2020年10月より低血糖時の救急処置を効能・効果としてグルカゴン点鼻粉末が発売されている。当薬局においてもすでに4例についての処方を応需しているが、その中で低血糖症状発現時に保管場所に問題のあった1例を経験している。

そこで、今回奈良県内65店舗におけるグルカゴン点鼻粉末の処方状況の実態調査をおこない、課題を検討した。

方法

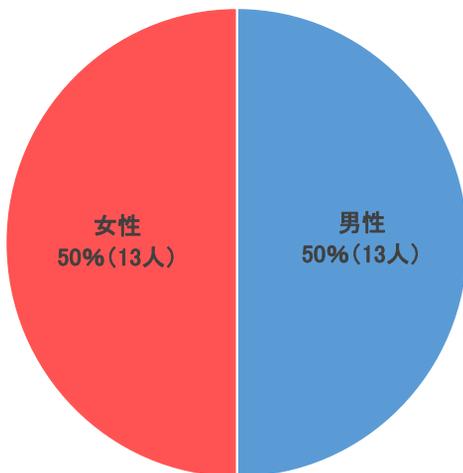
2020年10月～2021年5月の期間でグルカゴン点鼻粉末の納入実績のあった12店舗に対して、グルカゴン点鼻粉末の処方があった各症例の処方状況及び服薬指導の内容、保管場所の確認の有無についてアンケート調査を行った。

結果

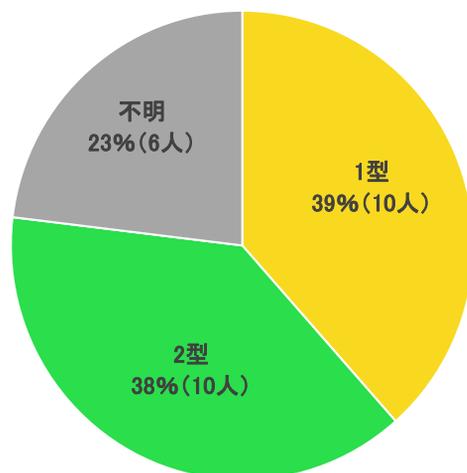
対象は、納入実績のある12店舗に対して行い、回収率は100%（開業医門前2店舗/総合病院前10店舗）であった。受付回数及び人数は32回/26人で、同じ患者への再処方が6回含まれていた。1回の処方本数については、1本が27回、2本が5回であった。また、服薬指導の際に保管場所を把握していたのは12店舗中3店舗であった。

結果

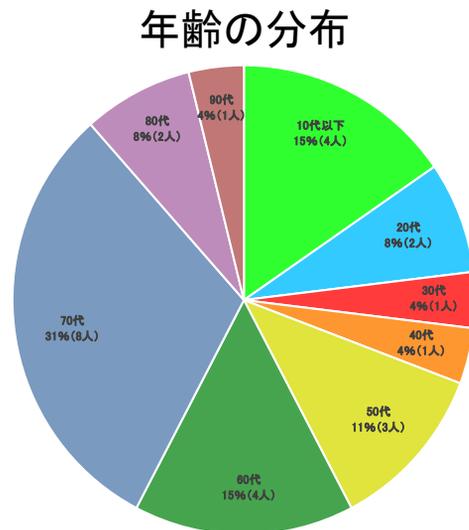
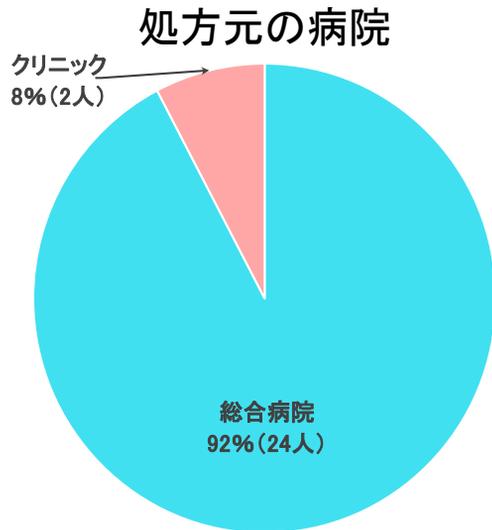
性別



成因分類

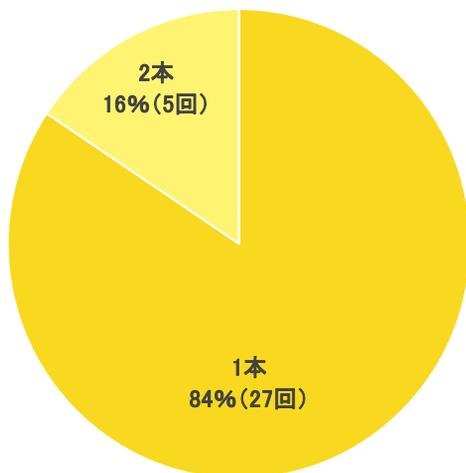


結果



結果

1回の処方あたりの投与本数*

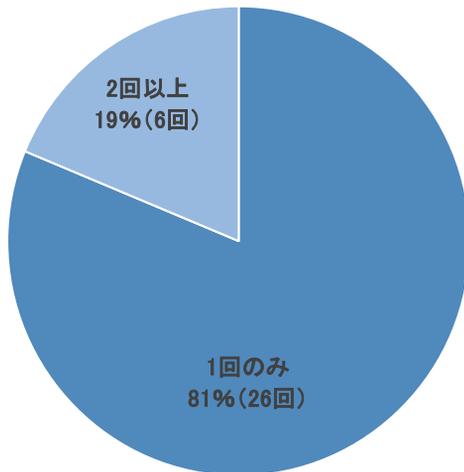


1回の処方あたりのグルカゴン点鼻粉末の投与本数を患者数で見ると、1本が27回、2本が5回であった。

1回に2本の処方があった患者では、自宅用と外出用に分けて保管する理由での処方が見受けられ、特に小児では自宅用と学校用でそれぞれ保管する理由で1度に2本が処方されていた。

結果

同一患者への処方回数



グルカゴン点鼻粉末の同一患者における処方回数については、1回のみが26回、複数回の処方が6回であった。

複数回処方のあった患者では、低血糖症状が発現し使用に至ったために2回目以降の処方がでていた例が2例認められたが、その他の例は自宅用と外出用に分けて持つ患者のために1本ずつ2回の処方がなされていた。

考察

昨年度より、グルカゴン点鼻粉末の処方が可能となったが、各店舗においてはまだ応需店舗は少なく、受付人数は26名であった。今回のアンケート調査では、グルカゴン点鼻粉末が1回の処方で2本、または2回にわけて1本ずつ処方されるケースが散見され、そのような場合には「自宅用」と「外出用」でそれぞれ保管している実態が把握できた。

一方、グルカゴン点鼻粉末の添付文書には、重要な基本的注意の項に「患者及びその看護者(家族等)が対処できるように、投与方法及び保管方法について十分指導すること。」との記載があるが、処方後に長期間使用しない例が多いと想定される。

そこで、グルカゴン点鼻粉末が1度でも処方された患者に対しては、定期的にグルカゴン点鼻粉末の使用時の注意点や保管場所、使用期限について再度指導していかねばならないと考える。

日本薬局学会 COI 開示

谷奥 寛

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。